

重要産業五ヶ年計整要綱實施ニ關スル政策大綱（案）

昭和十二、六、一〇
陸軍試案

0254

内 容 目 次

| | | |
|----|-------------|----|
| 第一 | 方針 | 一 |
| 第二 | 方 策 | 二 |
| 一 | 金融對策 | 二 |
| 二 | 貿易及爲替政策 | 八 |
| 三 | 物價對策 | 一三 |
| 四 | 産業統制政策 | 一六 |
| 五 | 技術者及労働者對策 | 二三 |
| 六 | 機械工業對策 | 二四 |
| 七 | 交通政策 | 二六 |
| 八 | 國民生活ノ安定保障政策 | 三一 |
| 九 | 財政々策 | 三四 |
| 十 | 行政機構ノ改革 | 三八 |

附 表

0180

0255

- 其 一 計畫産業ノ生産力擴大率表
- 其 二 國民貯蓄ノ推計表
- 其 三 日滿重要産業擴充計畫所要資金概算表
- 其 四 本計畫産業ニ對スル日本政府助成額豫想

0256

注

重要産業五年計画要綱実施に關する政策大綱(案)

(昭和十二年六月十日 陸軍武榮)

(東京大学 中村英隆助教授の研究資料より。当時の印刷物より河正一氏
昭和十一年九月七日 高崎編輯部より)

第一方針

重要産業五年計画ノ実行ニ方リテハ 日滿兩國ニ亘リ 次ニ示ス如キ金融政策、
貿易及為替政策、物価政策、産業統制政策、技術員労働者対策、機械工業小
対策、交通政策、国民生活ノ安定保証政策、財政政策、行政機構ノ改革等ノ
緊急實施シ計画ノ支障ナキ遂行ノ期スルト共ニ日滿支マロツクノ結成ト
自給經濟ノ確立並ニ日滿兩國國民經濟ノ協調的發展、一般國民生活ノ
向上兼安定ヲ圖リ以テ帝國ノ綜合的國防力ノ拡充ニ資スルトトス

金融政策

本計画ノ遂行ニ伴ヒ新ニ中央トスヘキ各種資金ヲ推定スルニ概テ左
如シ

(単位 百万円)

| 年次 | 政府支出 | | 民間支出 | | 計 |
|---------|-------|---------------|---------------|---------------|----------------------|
| | 増加 | 本計画以外 所要資金 | 本計画以外 所要資金 | 本計画以外 所要資金 | |
| 昭和十二(四) | 七二 | 七〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、八七二 |
| 十三 | 六二六 | 一、八六六 | 一、一〇〇 | 一、一〇〇 | 三、五九二 |
| 十四 | 九五五 | 一、八六六 | 一、一〇〇 | 一、一〇〇 | 三、九二一 |
| 十五 | 一、二五五 | 一、八六六 | 一、一〇〇 | 一、一〇〇 | 四、二二一 |
| 十六 | 一、三五五 | 七一九 | 一、一〇〇 | 一、一〇〇 | 三、一七四 |
| 合計 | 四、二六三 | 七、〇一七 | 五、五〇〇 | 五、五〇〇 | (一六七八八) (約一七、〇億円) |

備考

イ、對十二年度予算算ニ對シテ増加額トス
ロ、本計画ノ遂行ニ伴フ昭和十二年度第三次追加予算所要額トシ
テ七十一歳會ニ於テ審議セラルベキト予定ス

(注、以下次頁へ続ク)

本ルコトヲ目標トスルモノトス

本計畫ハ現下内外ノ情勢ニ鑑ミ東亞ノ安定勢力タル我國国力ノ充實強
化ヲ圖リ併セテ我國運ノ將來ニ於ケル飛躍的發展ニ備フル爲重要ナル國
防産業及基礎産業ニ付昭和十六年ヲ期シ所要ノ目標ニ達セシムベキ日滿
支^{提携ニ依}連^通生^産力ノ綜合的擴充計畫ヲ確立シ萬難ヲ排シ之ガ達成ヲ期ス
ルモノトス

根本方針

- 一 本計畫ノ範圍ハ國防力ノ基礎充實ニ主眼ヲ置キ特ニ統一の計畫ノ
下ニ急速擴充ヲ要スル重要産業ニ之ヲ限定ス
- 二 本計畫ハ日滿支間相互ノ緊密ナル連絡協調ノ下ニ日滿支^{提携ニ依}連^通生^産力
綜合的計畫ヲ樹立スルノ方針ニ基キ我國重要産業ニ付之ガ生産力擴
充計畫ヲ確立スルモノトス
- 三 本計畫ハ重要資源ニ付我勢力圈内ニ於ケル自給自足ノ確立ニ努メ
以テ有事ノ場合ニ於テモ可及的第三國資源ニ依存スルコトナカラシ

1. 2頁はミスプリント
昭和十五年「支那力扶助計画」
は本編に添付されず

右ノ内本計畫實施ニ必要ナル資金ノ支出分擔區分ヲ豫定スルコト概ネ左ノ如シ
 (單位百万圓)

| 年次 | 昭和十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 合計 | 備考 |
|-----------------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------------------------------|
| 日本政府 | 三〇 | 一四六 | 二六一 | 二七八 | 二八九 | 一、〇〇四 | 一、各産業別所要額見込ノ概要ハ附表其三ノ如シ 二、日本政府ノ出資額豫想ハ附表其四ノ如シ |
| 滿洲政府 | 四 | 九〇 | 一三〇 | 一三〇 | 一二五 | 四七九 | |
| 民間 | 七〇〇 | 一、八六六 | 一、八六六 | 一、八六六 | 七五五 | 七〇五三 | |
| 計 | 七三四 | 二、一〇二 | 三、二五七 | 三、二七四 | 一、一六九 | 八、五三六 | |
| 前掲政府支出ノ増加中ニ包含セララルモノトス | | | | | | | |
| 摘要 | | | | | | | |
| 主トシテ日本民間出資トス | | | | | | | |

0259

而シテ前記約百七十億圓ノ所要資金ニ對シ之ニ賄フヘキ國民貯蓄ハ今後本計畫期間ニ於テ約百七十億圓ニ達スルモノト推定セラル（附表其二參照）

然レトモ以上ノ外更ニ、地方債及對外投資ヲ併セテ五ケ年間約十數億圓ノ資金需要アルヲ以テ本計畫遂行ニ際シ其資金調達ヲ極端ニ悲觀スヘキノ必要ナキモ相當ノ統制ヲ必要トスルコト豫想ニ難カラス

之カ爲帝國ハ官民舉ツテ眞ニ協力一致本計畫ノ圓滑ナル遂行ニ邁進スヘキモノトス 今、本計畫遂行上必要ナル若干ノ金融對策事項ヲ述ツレハ次ノ如シ

0259-2

〔一〕本計畫遂行ニ伴フ建設所要資金ノ供給ヲ潤澤ナラシムル爲金融指導ノ原則ハ現存金融機關ノ積極的自發的協力ニ依リ其圓滑ナル運営ヲ期ス

〔二〕然レトモ調達市場ニ於ケル各種支障ヲ生セサラシムルカ爲必要妥當ナル統制ヲ行フ其主眼トスル所左ノ如シ

本計畫所要資金ノ供給ヲ容易ナラシムル爲

資金供給ノ源泉タル新規蓄積ノ積極的增加ヲ圖ル爲

資金投下ヲ調整シ其重複ヲ防止スル爲

適切妥當ナル金利政策ヲ堅持スル爲

〔三〕之カ爲必要ナル若干ノ具體策ヲ例示セハ左ノ如シ

(1) 資金調達ヲ容易ナラシムル爲ノ對策

イ、日本銀行條令ヲ改正シ同行ヲシテ基本的産業金融ヲ管掌セシム

ロ、同行ニ對シ各種金融機關ノ統制管理ニ關スル權能ヲ與フ

ハ、日本興業銀行法ヲ改正シ現債券發行法定最高限度ヲ十五倍迄擴張ス。之カ爲政府出資ノ下ニ必要ナル増資ヲ行フ
ニ、同行ニ對シ公社債發行受託ノ独占權ヲ賦與シ、起債市場ノ統制ヲ行フ

ホ、擔保物權制度ノ改正ヲ行フ

ヘ、預金部及簡易生命保險資金ノ對産業融資ヲ擴大ス

(8) 蓄積増加ノ爲ノ對策

イ、一大國民運動ヲ興シ、消費節約、勤檢貯蓄ヲ勵行ス

ロ、現行郵便貯金預入最低額ノ引下ケヲ行フ（拾錢ヨリ五錢ニ

ハ、郵便貯金ノ戸毎取立制度ヲ行フ（簡易保險料金ノ如ク）

(9) 資金投下調整ノ爲ノ對策

イ、不急不要事業ニ對スル新規投資ヲ抑制ス

ロ、日本銀行ヲシテ各種金融機關ノ資金運用ニ付監督指導ヲ行

ハシム

ハ、二重投資ヲ抑制ス

(4) 金利對策

イ、全般低金利政策ヲ堅持ス

ロ、興業銀行ノ公社債統一引受ニ依リ公社債利廻リ統制ヲ行フ

ハ、長期金利ト公債利子トノ調整ヲ行フ

ニ、短期金利昂騰抑制ノ爲、特ニ預金部資金ノ運用ヲ適當ナラシム

ホ、各種金融機關ノ合同及合理化ヲ促進シ極力金融「コスト」ノ低下ヲ圖ル

健全通貨政策ノ遂行ヲ圖リ中央銀行ノ統制下ニ適時適切ナル市場操作ヲ行フ

0262

三、貿易及爲替政策

本計畫實施ニ伴フ日滿ヲ一體トスル國際收支ヲ豫想スルニ次表ノ如ク昭和十二及十三兩年度ニ於ケル國際支拂不足ハ十億圓ヲ突破シ年内産金ノ現送ノミヲ以テシテハ之ヲ補填スルコトヲ得ス、然レ共生産力ノ充實ニ伴ヒ十五年度以降ニ於テハ此ノ頽勢ヲ挽回シ、國際收支ハ好轉スルモノト豫想セラル。

本計畫遂行ニ伴フ日滿一体國際收支豫想

(單位 百萬圓)

| | 昭和二年 | 十三年 | 十四年 | 十五年 | 十六年 | 合計 | 平均 |
|------------|--------|--------|--------|-------|------|--------|--------|
| 輸出總額 | 四〇八五 | 四四七八 | 四九八七 | 五四三〇 | 五九二七 | 二四八八七 | 四九七七 |
| 輸入總額 | 四六九九 | 五三六七 | 五四三三 | 五四五八 | 五四七〇 | 二六四一七 | 五二八三 |
| 出入(+)超 | (-)六二四 | (-)八八九 | (-)四三六 | (-)三八 | 四四七 | (-)五三〇 | (-)三〇六 |
| 貿易外收支 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 一、一五〇 | 二三〇 |
| 國際收支(-) | (-)三八四 | (-)六五九 | (-)二〇六 | 一九二 | 六七七 | (-)三八〇 | (-)七六 |
| 金現送 | 一五四 | 三七〇 | 一八〇 | | | | |
| 國際支拂過不足(-) | (-)二三〇 | (-)二八九 | (-)二六 | | | | |

而シテ之カ好轉ノ成否ハ懸ツテ政府ノ適切ナル貿易並爲替對策ニ在ルヲ以テ次ノ如キ方策ヲ講スルノ必要アルモノトス。

(一) 貿易對策

(1) 全般的貿易統制策

(イ) 貿易統制法ヲ制定シ、内外地ヲ同一ニ規律スルト共ニ、貿易組合法ヲ設ケ、營業者ノ自治的統制ト共同ノ利益ヲ促進ス。

(ロ) 貿易省ヲ設立シ、貿易ノ調整及管理ノ適正ヲ期ス。

(ハ) 國策貿易株式會社ヲ設立シ、國防重要產業品ノ輸出入ヲ行ハシム。

(2) 積極的輸出促進策

輸出ノ重點ハ軍需工業品及生産財ニ之ヲ置ク。但シ、國際收支ノ均衡ヲ保持スルタメ依然纖維工業及消費財ノ輸出増進ヲモ促進ス
(附表其三参照)

(イ) 輸出組合ヲ強化シ、營業者ノ強制加入ヲ命スルト共ニ品質、數量、價格ニ付自主的統制ヲ行ハシム。

(ロ) 輸出金融機關ヲ整備シ、輸出金融ノ圓滑ヲ期ス。

(イ) 現行輸出補償法ヲ強化シ、輸出補償ト信用補償ニ依リ對外輸出ヲ促進ス。

(ニ) 日滿商品ノ宣傳及迅速ナル各地貿易情報取得ノ爲世界主要都市ニ貿易館ヲ設置シ且所要地點ニ貿易通信員ヲ駐在ヒシム

(3) 消極的輸入抑制策

(1) 現行輸入爲替許可制度ハ要スレハ更ニ之ヲ存続シ、不急品及不要品ノ輸入ニ付適時適當ナル抑制ヲ行フ

(ロ) 關稅管理權ヲ貿易大臣ニ賦與シ、關稅法ヲ改正シ國際收支ニ重點ヲ置キ、復關稅制度及關稅撤廢ヲ目標トスル日滿特惠關稅制度ヲ採用ス

(ハ) 米、麥、獨、加、印等入超國ニ對シ求償主義ニ基ク輸出促進若クハ輸入抑制ヲ要求シ、中南米、近東ノ出超國ニ對シテハ求償ニ應ジ、輸入補償制度ニ依ル分散買付制度ヲ採用ス

(4) 貿易外收支ノ改善

(イ) 海運業ノ發展ヲ助長シ海外運賃收入ノ増加ヲ圖ル

(ロ) 外客誘致ニ努ムルト共ニ、日滿人ノ海外消費ヲ節約セシム。

㊦ 爲替對策

(イ) 劣メテ對英一志二片ヲ維持シ以テ爲替價格ノ安定ヲ圖ル。

(ロ) 爲替管理法ヲ強化シ、資本ノ海外逃避並海外圓投機ノ防止ヲ徹底的ニ行フ。

(ハ) 金買上價格ヲ適時適當ナラシメ以テ産金ノ劃期的獎勵ヲ促シ

(附 表 其 三 參 照)、滿洲中央銀行ノ保育金ヲ日銀ニ移讓シ、必要ナル金現送ヲ行フ。

(ニ) 海外ニ長期クレディットヲ設定ス。候補國ヲ米、英及獨トシ、五ヶ年間約五億圓トス。

三 物價政策

本計畫遂行ニ伴フ物資需要ノ増加ニ因リ物價ノ水準ハ本計畫期間ニ於テ年約一割内外ノ騰貴ヲ來スモノト推定セラル。

物價並勞賃對策ヲ適切ニシ以テ計畫ノ實行ニ支障無カラシムルト共ニ生産費ノ昂騰等ニ因リ生スルコトアルヘキ輸出ノ減退等ヲ防止シ且一般國民生活ノ混亂ヲ避クルヲ緊要トナス之カ爲左ノ如キ方策ヲ講スルノ必要アルモノトス。

(一) 鐵其他緊要ナル物資ノ生産ヲ急速ニ増大シ、凡ユル方策ニ依リ物資供給ヲ豊富ナラシメ、其ノ流通ヲ暢消ナラシム。

(二) 情勢之ヲ要スレハ物價統制ヲ強化シ、一般物價水準ノミナラス個別的價格ニ就テモ必要ナル抑制ヲ加フ。

(三) 過度ノ輸入制限ニ因ル國內市場ノ剝奪特ニ賣惜、見越輸入ノ激増及之ニ因ル海外市價ノ吊上等ヲ極力回避ス

特ニ計畫産業、輸出産業及主要生活必需品産業ニ對シ優先輸入制ヲ

實施シ且隨時定ムヘキ基準價格ニ基キ輸入價格ヲ審査ス

(四) 暴利取締令ヲ強化シ一切ノ供給制限及不當利益ヲ取締リ、違反者ハ嚴罰ス。

(五) 價格官ヲ新設シ暴利取締令、重要産業統制法、重要肥料業統制法等ニ依ル價格查察ヲ擔當セシム。

重要商品ノ値上ニハ政府ノ許可ヲ必要トセシム（即時實行）

(六) 石炭其他重要國產原材料及機械類ノカルテル又ハ組合（工業組合、商業組合、水産組合、産業組合其他）ヲ統制団体ト爲シ生産、販賣其他配給ノ割當及價格ノ統制ヲ行フ。

(七) 業者ヲシテ在庫高、約定高及生産高ヲ毎月管轄道府縣等ヲ經テ主務大臣ニ申告セシム。

(八) 運賃増嵩ヲ防止シ併セテスクラツプ貯藏ノ爲要スレハ古船大約六五万トンノ輸入ヲ圖ル。

(九) 鐵材其他重要商品並紙類ノ使用統制ヲ行フ、特ニ鐵材ニ在リテハ建

築認可ニ依リ亦紙類ニ在リテハ新聞及雜誌等ノ紙數制限ニ依ル
(7) 一般生活費ノ昂騰防止ヲ行フ。

(1) 家賃値上ニハ主務官廳ノ許可ヲ要セシムルモノトシ、本計畫期間
値上ハ之ヲ許可セサルヲ原則トス。味噌醬油、肉類、電燈、ガス
、水道等ノ料金ニ就テモ亦同シ。

(2) 本邦ニ於ケル砂糖消費税ノ減免ヲ行フ。

(3) 官吏一般ニ制服制ヲ採用シ、民間會社、銀行等ヲシテ之ニ倣ハシ
メ、普ク一般服裝ノ簡易化ヲ計ル。

四 産業統制政策

本計畫ハ信念アル強力ナル政府ノ指導下ニ官民一致勞資協力眞ニ國民一丸トナリテ始メテ急速ニ實現セラルルモノトスト雖要ハ現經濟機構ノ最效果のナル活用ニ在ルヲ以テ先ツ現經濟機構竝之ヲ運營スル有用人物ヲ國家的ニ最モ合理且能率のニ動員シ、本計畫遂行ノ先驅タラシムルモノトス

從ツテ企業ノ形態ニ於テモ國有國營形態ニ依ルコト無ク、努メテ民營事業ノ自主的統制ニ依リ國家ノ目的ヲ達成スル如ク必要ナル國家管理ヲ強化スルモノトス。

コレカ爲メ以上ノ方針ニ基キ處置スヘキ當面ノ緊要對策左ノ如シ。

(一) 産業統制局ヲ左ノ如ク擴充ス

(1) 産業統制局ノ現機能ヲ強化ス。

(2) 統制局ニ生産、配給及消費ノ各代表ヨリ成ル委員會ヲ設置シ法

律運用ノ適正且圓滑ヲ期ス。

(一) 重要産業ハ左ノ要領ニ依リ之ヲ統制ス。

(イ) 産業助成政策ヲ強化シ、要スレハ國策事業ニ對シ助成金ノ交付、損失補償又ハ利益保證ヲ爲ス。

(ロ) 計畫産業ニ就テハ當該産業別ニ單行法ヲ制定ス。

(ハ) 軍需産業ニ就テハ左記事項ニ關シ政府ノ認可ヲ要セシム。

1 生産設備ノ縮少及廢止

2 生産、販賣、勞務其他一般營業ニ關スル重要事項

3 損益處分

(ニ) 單價ノ抑制ハ特ニ必要アル場合ニ之ヲ行フ、利潤ハ必要ニ應シ國策的見地ニ基キ其處置ヲ指導ス。

(三) 基本産業ハ左ノ要領ニ依リ之ヲ擴充ス。

(1) 鐵鋼業

(イ) 原鐵輸入並貯鐵ヲ助成シ要スレハ屑鐵輸入ヲ抑制ス

(ロ) 貧鐵處理ヲ奨勵ス

(イ) 砂鐵利用ヲ促進ス、

(ニ) 特殊精鍊法ノ普及ヲ助成ス

(ホ) 特殊鋼ノ品質改良及増産ヲ促進ス

(ヘ) 鐵礦ノ輸入及配給ヲ國策的ニ統合ス

(ト) 日産ニ亘リ鋼材及銑鐵配賣機構ヲ統一シ、其ノ合理化ヲ圖ル

(2) 石油

(イ) 人造石油及油田ノ開發ニ斷乎タル國ノ助成策ヲ遂行シ以テ液体燃料自給策ニ邁進ス。

(ロ) 特殊法人帝國燃料興業株式會社ヲ設立シ石油事業ニ對スル金融ヲ潤澤ナラシムルト共ニ、必要ナル人造石油事業ヲモ實施セシム。

29 (ハ) 國內機械製作能力(官營ヲ含ム)ヲ統制利用シ、人造石油製造設備ノ急速整備ヲ圖ル。但シ開發初期ノ設備ハ概ネ年産一〇〇萬軒ヲ標準トシ國策ヲ以テ獨逸設備ノ輸入ヲ行フ。

(三) 前項ノ爲速ニ特殊法人國策機械製作會社ヲ設立シ高精度及緊急機械ノ外專ラ人造石油製造設備ノ製作ニ當ラシム。之カ爲建設ニ要スル一萬一フオシングプレス、工作機械等主要設備ハ獨逸ニ重點ヲ置キ國策ヲ以テ之カ急遽輸入ヲ行フ。

(四) 人造石油製造方法及企業形態ニ對シテハ別ニ制限ヲ加フルコト無シ、但シ良質ナル航空用揮發油及「デイセル」油ヲ製出スルモノニ重點ヲ指向スル如ク之ヲ指導ス。

(五) 軍用人造石油事業開發ノ重點ハ大陸ニ之ヲ置キ特ニ滿洲石炭ノ合理的利用ニ努メシム。

(六) 極力既存油田ノ試掘ヲ促進セシムルノ外、帝國及隣邦ニ亘ル廣汎且深刻ナル國營油脈調査ヲ行ヒ以テ未發見油田ノ開發ニ努ム

30
(七) 代用燃料ノ研究利用ヲ促進ス。

(5) 石炭業

(1) 炭田開發ノ重點ハ大陸ニ之ヲ置ク。

(2) 價格及ヒ配給ハ日滿ヲ通シ一元的ニ之ヲ統制シ、特ニ滿洲炭ノ日本輸入ヲ促進ス。

(3) 劣悪企業ハ之ヲ統合理整シ以テ斯業ノ合理化ヲ圖ル。

(4) 電力

(1) 發送電ハ民有國營トシ二重設備ノ廢止其他設備ノ合理化及未開發資源ノ徹底的開發利用ヲ圖ル。之カ爲特殊法人日本電力設備株式會社ヲ設立シテ之カ管理經營ニ當ラシム。

(2) 配電ニ付テモ價格、設備其他ニ付必要ナル統制ヲ行フ。

(3) 所管ヲ商工省トシ産業開發ニ重點ヲ置カシム。特ニ全般低料金制ヲ實施シ、尙特殊指定産業ニ對スル特定低料金制ヲ行ヒ重要國防産業ノ急速振興ヲ圖ル。

(4) 水力開發ニ重點ヲ置キ、水主火從主義ヲ維持ス。

(5) アルミニウム及マグネシウム

(イ) 豊富且低廉ナル電力供給ヲ實施セシメ、極力生産費ノ引下ヲ行フ。

(ロ) 國策ヲ以テ積極的ニ用途ヲ開拓シ一般需用ヲ擴大ス。

(ハ) 極力大陸資源ノ利用ニ努メシム。

(四) 重要産業統制法ヲ左ノ如ク改正ス

1 産業指定制度ヲ廢止シ、一般カルテル法トス

2 新設及擴張統制條項ヲ活用シ、新規投資ノ誘導ヲ圖ル

3 公益規定ヲ強化シ就中其ノ運用ヲ迅速且適正ナラシム

4 處罰規定ヲ嚴重ニシ、体罰制度ヲ採用シ、場合ニ依リ營業權剝奪ノ制ヲ設ク。

(五) 日滿兩國ニ亘リ本計畫ノ實行ヲ内面的ニ指導統制スル爲中央ニ之カ
綜合的指導統制機關ヲ設置ス。

(六) 特ニ滿洲ニ在リテハ製鐵、石炭及石油業ヲ軍需工業ニ指定シ、一般

23 (内) 助成ノ外、軍事的助成ニ依リ之カ急速ナル開發ヲ行ヒ得ル如クス。
以上ノ外重要ナル産業ニ關シ研究ノ統一、助成及發明獎勵ノ處置ヲ
講シ且所要ノ資源ニ關シ調査開發ヲ促進ス。

五 技術者及労働者対策

本計畫ノ遂行及之ニ伴フ一般産業ノ生産力増大並交通量ノ増加ニ因リ昭和十六年頃ニ於ケル工、鑛業及交通業等ニ於ケル技術者、熟練工及一般労働者ノ需要ハ左ノ如ク増加スルモノト推定セラル。

| 區分 | 昭和十一年 | 昭和十六年 | 増加人員 | 増加率 |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 技術者 | 一三七 | 二三二 | 九五 | 一七% |
| 熟練工 | 六七四 | 一、三三九 | 六六五 | 一九% |
| 一般労働者 | 六〇九〇 | 八〇二七 | 一、九三七 | 一、三% |

(單位千人)

右ノ内、自然増ニ依リ供給セラルル分トシテ技術者七八千人、熟練工五五九千人、一般労働者六九七五千人ヲ見込モ得ルノ外、技術者ニ在リテハ更ニ下級技術者ヨリノ格上及其他學部ヨリ供給セラルルモノ九七八〇人ヲ推算シ得ルヲ以テ、轉ニ之カ養成補充ヲ必要トスル數ハ技術者六七〇〇人熟練工九六〇〇〇人、一般労働者一、〇五二〇

〇〇人ト推定ス之カ爲政府カ採ルヘキ對策左ノ如シ

〔技術者對策〕

官公私立大學工學部及工業專門學校卒業生ノ増加、私立大學工學部新設、工業專門學校及甲種工業學校ノ昇格、官公私立大學工學部附設等ノ方策ヲ講ス。

〔熟練工對策〕

府縣及大工場ニ熟練工養成所ヲ新設擴張セシム。

〔一般労働者對策〕

主トシテ農業及商業人口ヨリ吸引スルコトトシ、吸引ヲ圓滑ナラシムル爲職業紹介機能ヲ強化シ又工業ノ地方分散ニ努ム。

〔所要經費〕

技術者及熟練工ノ養成ニ要スル經費（設備費及五年間經常費共）總額八千七百六十萬圓、内政府支出金五千八百三十萬圓ト推定ス

六機械工業對策

我カ現下ノ生産力ヨリシテ本計畫ニ必要ナル一切ノ機械ヲ迅速ニ自給スルハ全ク不可能ノ事ニ屬シ少クトモ速急ニ當面必要ノモノハ輸入ニ依リテ之ヲ充足セサル可カラサルモノアリ今其額ヲ推計スルニ概ネ左ノ如シ。

(單位百萬圓)

| 區 | 分 | | 所要總額 | 要輸入額 | 摘要 |
|----------------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 一般機械 | 工作機械 | | | |
| 本計畫ニ要スルモノ | 二、九〇〇 | 五〇〇 | 三、四〇〇 | 九五〇 | 凡テ推定トス |
| 其他ノ一般産業ニ要スル機械類 | 一〇、五〇〇 | 一、〇五〇 | 一一、五五〇 | 一、〇五〇 | |
| 合計 | 一三、九〇〇 | 二、二五〇 | 一六、一五〇 | 二、〇五〇 | |

而シテ五ヶ年間ノ國產機械輸出チ十七億圓ト見込ムモ尙、多大ノ入超ニ終ル右ノ如キハ一國重工業ノ建設期ニ於テハ不可避ノ事象ニシテ速ニ彼ノ設備ト技術ヲ採ツテ我ノ缺ヲ補ヒ、以テ敏速ニ獨立自給ノ

途ヲ確保シ以テ世界市場ニ進出スルノ日ヲ近キニ期スヘキナリ之ガ
爲採ルヘキ方策左ノ如シ。

〔一〕特殊法人國策機械製作會社ヲ設立シ需要寡少ノ機械、高級精密工
作機械、石炭液化用機械等、技術的並經濟的ニ現存企業ニトリ困
難ナルモノノ製作ヲ管掌セシム。

〔二〕國策ヲ以テ技術及設備ノ迅速ナル輸入ヲ行フ、主トシテ國策貿易
會社ヲシテ之ニ當ラシメ對外駐文ノ統制、海外受註能力ノ調査及
輸入價格ノ抑制及輸出資金ノ融通等ヲ行ハシム。

〔三〕規劃ノ統一、國內發注ノ合理化及製作品種ノ統制等ニ依リ速ニ生
産能力ノ増進ヲ圖ル。

〔四〕下請業者ノ統制ニ努メ其ノ素質及能力ヲ向上セシム。

七 交通對策

〔一〕政府ハ鐵道、港灣及道路ノ整備、各種運賃ノ全面的合理化及不急輸
送ノ整理等ニ依リ、本計畫遂行ニ伴フ貨物輸送量ノ増加ニ備フルモ

ノトス。

別ニ民間航空ニ對シ、斷呼^テタル保護助長策ヲ講シ以テ其ノ劃期的振興ヲ圖ル。

其ノ主ナル事項左ノ如シ。

(一) 鐵道

(イ) 貨主客從主義ヲ採用シ萬難ヲ排シテ貨物輸送ノ圓滑ヲ期ス。

(ロ) 滿鮮主要幹線ノ直線化ヲ促進シ、其ノ輸送能力ノ引上ヲ行フ。

(ハ) 重要産業建設財其ノ他重要商品ニ對スル特定低運賃制度ヲ採用シ、特ニ滿鮮ニ在リテハ貨物運賃遠距離遞減制ヲ實施ス。

(ニ) 所要ニ應シ滿鮮重要産業地帯ニ於ケル新線建設及改良ヲ行フ。

(二) 海運

(イ) 自國船自國貨物船主義ヲ確立ス。之カ爲、止ムヲ得サレハ古船輸入ヲモ行フ。(前掲)

(ロ) 優秀船ノ建造増加ハ一層之ヲ促進セシム。

(ハ) 石炭、鑛材、鐵礦及石油ノ爲特殊輸送船ヲ整備セシム。

(ニ) 重要産業地帯ニ於ケル港灣整備ヲ行フ。

陸上運輸

(イ) 官民舉ツテ國產自動車採用主義ヲ實行ス。但シ、本計畫期間止ムヲ得サル限度ニ於ケル低價ナル「フォード」「シボレー」ハ例外トス。

(ロ) 優秀國產車ヲ以テスル大型貨物自動車ノ普及ヲ促進シ、鐵道輸送ノ不足ヲ補フ。

(ハ) 其ノ他左ノ措置ヲ講ス。

1 自動車運輸ニ便ナル道路ノ整備

2 營業用自動車ノ規格統一、程度不良車ノ使用抑制

3 デイゼル自動車ノ普及獎勵

4 自動車ニ對スル各種稅ノ減免

(四) 航空

(イ) 速ニ中央航空技術研究所ヲ設立シ、航空技術ノ劃期的發達ヲ促進セシム。

(ロ) 定期航空運賃ヲ合理化シ、極力民間利用率ヲ擴大ス。

(ハ) 鐵道ト航空トノ一体化ヲ促進シ、鐵道ニ依リ航空輸送ノ發達ヲ圖ル。

(ニ) 保護助成ヲ更ニ擴大シ以テ大陸及海洋方面ニ對スル國際定期航空空路ヲ開拓ス。

(ホ) 其ノ他左ノ如キ發達助成策ヲ行フ。

- 1 大會社、大工場等ニ於ケル飛行機保有義務ノ設定
- 2 特殊機体又ハ發動機ノ研究、試作獎勵
- 3 民間ノ國産機買入補助
- 4 國産機ノ輸出獎勵補助
- 5 飛行機ニ依ル漁群探見等獎勵
- 6 各種空中作業（寫眞撮影、測量等）ノ獎勵

- 7 航空保険制度ノ創設
- 8 航空機製作設備ノ維持保護等

八 國民生活、安定保證政策

近年我國、産業發達ノ跡見ルヘキモノアリト雖尙其、淵由スル處遠カラサル爲、國富及國民所得、如キ列強ニ比シ著シキ劣位ニアルハ否ミ難シ本計畫ノ目標トスル所ハ、固ヨリ綜合的國力ノ整備ニ在リ即本計畫ノ遂行ニ依リ發展途上ニ在ル各種産業ハ、一大躍進ヲ成スニ至ルヘク、此、生産増加ニ依リ我カ國民所得ハ昭和十六年頃ニハ現在ノ二百億ヨリ、三百億以上ニ上昇スルモノト推定セララル。而シテロノ際、特ニ留意スヘキハ此ノ増大スヘキ國富國民所得ノ國民各階層ヘノ配分カ妥當均衡ナルヘキコト之ナリ、蓋是、國民生活安定ノ基調ナレハナリ之カ爲農村ノ振興、都市勤勞者ノ生活向上、中小商工業ノ救済等ニ就キ左ノ諸方策ヲ講スルモノトス

(一) 農村ノ振興。本計畫ノ實行ニ當リ動モスレハ生スルコトアルヘキ都市偏重ノ弊ヲ矯メ、工業ノ地方分散等ニ依リ農村經濟ノ振興ニ努ムルト共ニ、農民負擔ヲ輕減シ、ソノ生活ヲ向上セシムルモノ

トス

(1) 公租負擔ノ輕減

總額二億一千六百萬圓

内 譯

戶數制ノ全廢

一四〇百萬圓

特別地稅及附加稅ノ半減

七

雜種稅及附加稅ノ半減

五〇

町村役場費中政府事務ニ關スルモノノ移讓一九

(2) 農民負債ノ整理

中小農ノ消費的負債ニシテ農業生産ニ障礙タルヘキ高利債並無

擔保負債ヨリ約十五億圓ヲ整理ス。政府八年額一千萬圓ヲ限り

負債管理組合ノ損失補償ヲ爲スモノトス

(3) 保健組合制度ノ設立

町村ヲシテ保健組合ヲ設立セシメ、全町村民ヲ強制加入セシム

醫療費年額約一七五〇〇萬圓（一戸當平均二五圓トシテ七百萬
戸）、財源ハ、住民ノ保健掛金、政府補助金、及ヒ治療者ノ自
辨等各三等分ニ之ヲ負擔ス

(4) 自然的農業災害ノ補償制度ノ新設

敷ケ村單位ニテ保險組合ヲ組織セシメ主要農作物ノ收穫保險ヲ
行ヒ、國營保險ニテ再保險ス。再保險ニ依リ政府ノ支辨スヘキ
保險金ハ約六〇〇〇萬圓ト推定ス

〔三〕 都市勤勞者ノ生活向上

(1) 産業擔充ニ伴フ勞働強化、物價高ニ伴フ生活水準ノ低下等ニ對
シ極力之カ緩和ノ途ヲ圖リ、國民勞働力ノ培養ト産業平和ノ維
持ニ努ム

(2) 工場法ヲ改正シ特ニ過激勞働ノ緩和、傷病者ノ保護等ヲ行フ

(3) 各種勤勞保險ノ擴大ヲ圖ル

※※ (4) 其他一般勤勞者ノ順利施設ヲ増進セシム

三 中小商工業者ノ保護

我國産業機構ニ於テ、中小商工業ノ占ムル位價極メテ重要ナルニ
鑑ミ、之カ更生ト救済ノ爲左ノ處置ヲ講ス

- (1) 中小商工業者ノ債務整理
- (2) 中小商工業金融機關ノ整備
- (3) 大企業ノ壓迫排除
- (4) 經營ノ合理化及機構ノ組織化

四 財政政策

本計畫ノ成否如何ハ一ニ懸ツテ帝國政府ノ一貫セル不動ノ國策的指
導ニ在ルコト言テ俟タス。政府ハ国力増強ノ見地ヨリ各種産業ニ對
シ凡ユル政策手段ヲ以ツテ之ヲ支拂スルヲ要スヘク、特ニ政府ノ財
政的助成手段ハ最モ肝要ナリ

今本計畫遂行ノ爲政府ノ財政的助成ヲ要スト認メラルル額ヲ推定ス
ルニ據テ左ノ如シ(内譯見込ノ概要ハ附表其四參照)

註(1) 本計畫ノ遂行ニ伴フ十二年度第二次追加豫算トシテノ所要額トシ

| 區分 | 歳出豫算總額 (推定) | 昭和十二年度ニ 對スル増加額 |
|----|----------------|-------------------|
| 十二 | 三、九四五 | (1) 七三 |
| 十三 | 三、五七一 | 六六六 |
| 十四 | 三、九〇〇 | 九五五 |
| 十五 | 四、二〇〇 | 一、二五五 |
| 十六 | 四、三〇〇 | 一、三五五 |
| 計 | 一八、八四三 | 四、二六三 |

而シテ國力ノ充實國防ノ充備ヲ目的トスル帝國ノ將來歳出(本計畫ノ遂行ヲ目的トスル將來ノ歳出額)ヲ豫想スルニ概ネ左表ノ如ク前記助成金ハ本歳出額中ニ包含セシメラルルモノトス

| 事項 | 本計畫産業ニ對 スル建設助成費 | 本計畫遂行ノ爲 ノ附帶助成費 | 合計 |
|----|--------------------|-------------------|-------|
| 十二 | 三〇 | 二七 | 五七 |
| 十三 | 一四六 | 八二 | 二二八 |
| 十四 | 二六一 | 五九 | 三二〇 |
| 十五 | 二七八 | 五五 | 三三三 |
| 十六 | 二八九 | 四九 | 三三八 |
| 計 | 一、〇〇四 | 二七二 | 一、二七六 |

(單位百萬圓)

三九四五百萬圓中ニ包含シアリ。

之カ爲ノ對策左ノ如シ

一、右ニ對スル歲入豫算ハ左ノ方法ニ依リテ之ヲ支辨ス

(單位百萬圓)

| 區分 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 合計 |
|--------------|----------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 基準收入 | 一、六〇〇 | 一、六〇〇 | 一、六〇〇 | 一、六〇〇 | 一、六〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 自然増収 | 四〇〇 | 七八四 | 九〇三 | 一、〇七三 | 一、二二一 | 四、三七一 |
| 特別會計ヨリ線入増 | 五〇 | 六〇 | 七三 | 八六 | 九九 | 三六八 |
| 公債 | 八九五 | 一、一二七 | 一、三三四 | 一、四四一 | 一、三九〇 | 六、一七七 |
| 合計 | 三、九四五 | 三、五七一 | 三、九〇〇 | 四、二〇〇 | 四、三〇〇 | 一八、九二六 |
| 昭和十二年增加額ニ對スル | (1) (七三) | 六三六 | 九五五 | 一、二五五 | 一、三五五 | 四、二六三 |

三、政府ハ右財政政策ヲ遂行スル爲、金融、消費、其他國民生活ノ全部門ニ亘リ財政ヲ良好ナラシムヘキ凡ユル綜合的方策ヲ行フノ外特ニ左ノ措置ヲ講スルヲ必要トス

- (1) 豫算統制ヲ強化シ、歳出ノ重點ハ本計畫ノ遂行ヲ助成且可能ナラシムルモノニウラ置キ、不急不要經費ノ徹底的整理ヲ行フ
- (2) 生産力ノ肉上、國民所得ノ増加ト相俟チテ、租稅体系其他ノ根本的合理化ヲ行ヒ、經常收入ノ増加ヲ圖ル
- (3) 一層軍事費ノ生産部門ヘノ擴充ヲ圖ル
- (4) 重工業利潤ノ農山漁村方面ヘノ均濟化ヲ促進ス
- (5) 金融政策ト相俟ツテ公債政策ヲ確立ス
- (6) 官公吏事務能率ノ向上ヲ目的トスル行財政整理ヲ行フ

十 行政機構の改革

本計畫ノ遂行ニ方テハ強力ナル行政機構ヲ確立シ一貫セル不動ノ國策トシテ之ヲ堅持スヘキモノトス之カ爲國務院ヲ設ケ國務大臣ト各省長官ヲ分離シ等現行内閣制度ノ根本的的改革ヲ始メ行政機構全般ノ再検討ヲ要スルニ必然ナルモ之カ急速ナル實現困難ナルニ因リ差當リ少クモ左ノ應處置ヲ講シ以テ本計畫遂行ノ爲ノ國策運行ニ支障無カラシムルコト必要ナリ

一 本計畫遂行ノ中核的指導統制機關トシテノ總務廳ノ設置

二 貿易ノ調整及管理ノ爲ノ貿易省新設

三 民間航空ノ劃期的發展ノ爲ノ航空省新設

四 國民體健ノ向上ト勞働力培養ノ爲ノ保健省新設

五 民間ノ人材ヲ拔擢登用シテ清新ナル産業經驗ヲ行ハシムル爲ノ官吏

任用令ノ改正

六 特殊法人ノ人事ニ關シテハ特ニ從來ノ弊ニ鑑ミ原則トシテ官吏ヲ登用セサルモノトス

附表其一

計産産業ノ生産力擴大率表

主ナル計産産業ニ就キ昭和十六年ニ於ケル生産力ヲ昭和十一年現在
能力ト比較スルニ概ネ左ノ如シ

| 種別 | (A) 生産目標 | | (B) 現在能力 | | (A)/(B) 對スル倍加率 | |
|--------|-----------|---------|----------|-------|----------------|-------|
| | 計 | 日 | 計 | 日 | 計 | 日 |
| 一般自動車 | 一〇〇千臺 | 九〇 | 三七 | 三七 | 二、七 | 二、四 |
| 工作機械 | 五〇千臺 | 四五 | 一三 | 一三 | 三、八 | 三、五 |
| 鋼材 | 一、三〇〇萬枚 | 九〇〇 | 四八五 | 四四〇 | 二、七 | 三、〇 |
| 石油 | 五六五萬計 | 三二五 | 三六四 | 二二 | 一、五、四 | 一、五、六 |
| 石炭 | 一、一〇〇萬噸 | 七二〇〇 | 五、五、六 | 四、二〇〇 | 二、三、五、六 | 三、〇 |
| アルミニウム | 一〇〇千噸 | 七〇 | 二二 | 二二 | 四、八 | 三、三 |
| マグネシウム | 九千噸 | 六 | 〇、五 | 〇、五 | 一、八、〇 | 一、三、〇 |
| 電力 | 一、二、五、七萬瓩 | 一、一、一、七 | 七二一 | 六七五 | 一、七 | 一、七 |
| 造船 | 九三萬噸 | 八六 | 五〇 | 五〇 | 一、九 | 一、七 |

備考

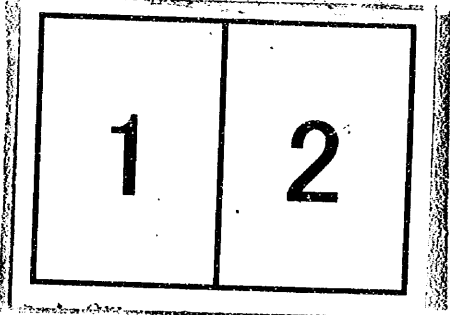
一、一般機械ノ擴大率ハ概ネ一、八倍トス

二、石油ハ揮發油及重油ノ國産原料ノモニ依ル生産擴大率ヲ示ス、

輸入原油ニ依ル生産能力(十一年)ヲ基準トスルトキハ其ノ倍

ハ概ネ一〇倍弱トス

分割撮影ターゲット

| | |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 分割した 部分の 撮影順序 |  |
| 分割撮影 した理由 | A 3 版 以 上 の た め |
| 上記のとおり分割撮影した事を証明する。 | |

0295
0296

附表其二

國民貯蓄ノ推計表

| 年中 増減 | 積立金 | | 産業組合 出資 | 会社拂込 資本金 | 内 國 | | | | 保險準備金 | | 無盡基金 | 銀行預金 | 郵便貯金 及郵便振 替貯金 | 信託預金 | 産業組合系 統機關貯金 及預り金 | 預金部ニ於 ケル特殊預 金 | 個人及産業 會社所有現 金 | 計 A | 銀行保險信託無 政府地方公共團 預ケ金 有價 |
|----------|--------|------|------------|-------------|---------|-------|-----|-----|-------|-------|-------|---------|---------------------|------|------------------------|---------------------|---------------------|---------|------------------------------|
| | 會社 | 産業組合 | | | 社債 | 國債 | 地方債 | 産業債 | 保險會社 | 官營保險 | | | | | | | | | |
| 昭和1 | 98 | 14 | 21 | 578 | 205 | 158 | 26 | 2 | 137 | 92 | (-) 1 | 365 | 28 | 220 | 145 | (-) 2 | (-) 57 | 2,029 | (-) 64 |
| 2 | 61 | 5 | 18 | 539 | 427 | 242 | 101 | 15 | 114 | 147 | - | 104 | 369 | 274 | 146 | 1 | 91 | 2,652 | 16 |
| 3 | 129 | 14 | 18 | 462 | 466 | 420 | 169 | 2 | 136 | 137 | 5 | 257 | 224 | 294 | 177 | 6 | 12 | 2,928 | (-) 264 |
| 4 | 92 | 11 | 17 | 659 | 238 | 239 | 137 | 6 | 151 | 131 | 10 | 293 | 318 | 151 | 115 | 30 | (-) 70 | 2,528 | 94 |
| 5 | (-) 42 | 10 | 12 | 299 | 295 | 66 | 48 | 17 | 115 | 138 | 8 | (-) 343 | 296 | 4 | (-) 7 | (-) 7 | (-) 151 | 756 | (-) 122 |
| 6 | (-) 78 | 7 | 6 | 273 | 136 | 204 | 145 | - | 123 | 127 | 8 | (-) 542 | 265 | 46 | (-) 35 | 16 | (-) 56 | 645 | (-) 307 |
| 7 | 84 | 5 | 5 | 264 | 147 | 746 | 145 | 18 | 142 | 172 | 1 | 369 | 85 | 5 | 54 | (-) 17 | 72 | 2,297 | 110 |
| 8 | 316 | 6 | 4 | 632 | (-) 164 | 1,109 | 262 | 5 | 157 | 240 | 13 | 599 | 109 | 169 | 217 | 120 | 95 | 3,890 | 313 |
| 9 | 438 | 8 | 7 | 1,330 | 96 | 1,041 | 359 | 0 | 217 | 232 | 18 | 707 | 157 | 183 | 93 | (-) 22 | 82 | 4,966 | 48 |
| 10 | X 438 | X 8 | X 7 | 999 | 151 | 878 | 114 | 2 | 241 | X 232 | 14 | 934 | 160 | 164 | X 93 | (-) 39 | * 104 | * 4,500 | * 112 |

X印ハ不明ニ

*印ハ上記ニ

國民貯蓄ノ推計表

(單位百萬圓)

| 國 | 保險準備金 | | 無盡基金 | 銀行預金 | 郵便貯金 及郵便振 替貯金 | 信託預金 | 産業組合系 統機關貯金 及預り金 | 預金部ニ於 ケル特殊預 金 | 個人及産業 會社所有現 金 | 計 A | 銀行保險信託無盡産業組 政府地方公共團體所有 預ケ金 有價證券 | 産業會社所 有有價證券 預ケ金現金 | 計 B | 國民貯蓄 (A-B) | | |
|-----|-------|-----|-------|-------|---------------------|------|------------------------|---------------------|---------------------|---------|---------------------------------------|-------------------------|---------|---------------|---------|---------|
| | 地方債 | 産業債 | | | | | | | | | | | | | 保險會社 | 官營保險 |
| 26 | 2 | 137 | 92 | (-) 1 | 366 | 28 | 220 | 146 | (-) 2 | (-) 57 | 2,029 | (-) 64 | 382 | 116 | 453 | 1,596 |
| 101 | 13 | 114 | 147 | - | 104 | 369 | 274 | 146 | 1 | 91 | 2,652 | 16 | 990 | 125 | 1,131 | 1,521 |
| 169 | 2 | 136 | 137 | 5 | 257 | 224 | 294 | 177 | 6 | 12 | 2,928 | (-) 264 | 1,359 | 172 | 1,267 | 1,661 |
| 137 | 6 | 151 | 131 | 10 | 293 | 318 | 151 | 115 | 30 | (-) 70 | 2,528 | 94 | 504 | 129 | 727 | 1,801 |
| 48 | 17 | 113 | 138 | 8 | (-) 343 | 296 | 4 | (-) 7 | (-) 7 | (-) 151 | 756 | (-) 122 | 291 | 11 | 180 | 576 |
| 145 | - | 123 | 127 | 8 | (-) 542 | 265 | 46 | (-) 35 | 16 | (-) 56 | 645 | (-) 307 | 403 | 14 | 110 | 535 |
| 145 | 18 | 142 | 172 | 1 | 369 | 85 | 5 | 54 | (-) 17 | 72 | 2,297 | 110 | 1,091 | 5 | 1,206 | 1,091 |
| 262 | 5 | 157 | 240 | 13 | 598 | 109 | 169 | 217 | 120 | 95 | 3,890 | 313 | 1,715 | 113 | 2,141 | 1,749 |
| 359 | 0 | 217 | 232 | 18 | 707 | 157 | 183 | 93 | (-) 22 | 82 | 4,966 | 48 | 1,542 | 278 | 1,868 | 3,098 |
| 114 | 2 | 241 | X 232 | 14 | 934 | 160 | 164 | X 93 | (-) 39 | * 104 | * 4,500 | * 112 | * 1,238 | 309 | * 1,659 | * 2,841 |

X印ハ不明ニ付前年分ヲ假使用セルモノ

*印ハ上記ニヨル數字ヲ含ム

附表其ノ三

日滿重要産業擴充計畫所要資金概算表

| 種別 | 單位 | 新規模充量 | | | 建設所要資金 (單位百萬圓) | | |
|--------|-----|------------|------------|---------------------|-------------------|------|-------------------------|
| | | 計 | 日 | 滿 | 計 | 日 | 滿 |
| 飛行機 | 萬臺 | | | | 三七五 | 三〇三 | 七三 |
| 一般自動車 | 萬臺 | 一一 | 一〇 | 一 | 一五三 | 一四六 | 七 |
| 一般機械 | 萬圓 | 二五〇〇 | 二七〇〇 | 八〇〇 | 六二五 | 五八五 | 四〇 |
| 工作機械 | 萬圓 | 一三〇〇 | 一〇七〇 | 三〇〇 | 一三七 | 一〇七 | 三〇 |
| 鑄鋼 | 萬噸 | 七二五 | 三六〇 | 三五五 | 一〇〇一 | 五〇四 | 四九七 |
| 銑 | 萬噸 | 八三九 | 四七四 | 三六五 | 九八 | | 九八 |
| 鑽 | 萬噸 | 一三〇七 | 四七七 | 七三〇 | 九七 | 三八 | 五八 |
| 石油 | 萬噸 | 一五一 | 一五一 | 一 | 一〇〇 | 一〇〇 | |
| 人石 | 萬噸 | 四〇〇 | 一六五 | 頁液 一四九 二二五 | 一三五 | 五九八 | 頁液 六三一 一〇七 七三八 |
| アルコール | 萬噸 | 二九 | 二五 | 四 | 八六 | 七五 | 一一 |
| 計 | 萬噸 | 五八〇 | 三四一 | 二二九 | 一五二 | 七七三 | 七三九 |
| 石炭 | 萬噸 | 五八四四 | 三四〇〇 | 二四四四 | 七六九 | 四七六 | 二九三 |
| アルミニウム | 萬噸 | 六 | 四 | 二 | 一四一 | 七九 | 六二 |
| マグネシウム | 千噸 | 五 | 三 | 二 | 一四 | 七 | 七 |
| 電力 | 萬KW | 五三六 | 四四二 | 九四 | 二四七七 | 三三〇 | 二六七 |
| 造船 | 萬噸 | 四三 | 三六 | 七 | 二二九 | 一〇八 | 三二 |
| 車輛 | 萬臺 | | | 八八(六九) 三〇〇(七六三〇) | 二八 | 一 | 二八 |
| 曹達 | 萬噸 | 三三 | 一九 | 四 | 二四 | 一九 | 五 |
| 藥料 | 萬噸 | 二 | 二 | 一 | 三三 | 三三 | 一 |
| バルブ | 萬噸 | 二八 | 二三 | 五 | 九八 | 八 | 一八 |
| 探金 | 萬圓 | 三二四二 五七 | 一四七五 四〇 | 六九六六 一七 | 一八六 | 一四四 | 四二 |
| 其他 | | | | | 六四二 | 四八 | 一六〇 |
| 所要資金總計 | | | | | 八五三六 | 六〇九二 | 二四四四 |

備考 本表ハ本計畫遂行ニ要スル建設資金總額ヲ推定スル爲別途研究セシメタルモノナリ從ツテ基礎數量ニ於テ要望別表及附表其ノ一ト若干符合セサルモノアルモ資金算定ノ基礎ヲ示スモノトシテ參考ノ爲貼ク之ヲ收録セリ

附表其四ノ一

本計登産業ニ對スル日本政府直接及間接助成経費豫想額

(單位千圓)

| 費目 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 計 |
|------------------------------|--------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 航空機製作會社工場設備維持保證 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3,570 | 3,574 |
| 軍事航空費ヨリ飛行機工業建設資金ニ指向セラルル額(推定) | 33,199 | 31,388 | 33,799 | 43,155 | 46,788 | 176,256 |
| 鐵鋼自給政策ニ伴フ設備補助 | 260 | 2,100 | 3,100 | 2,600 | 1 | 8,060 |
| 石油試掘獎勵金(既定) | 693 | 715 | 715 | 715 | 715 | 3,553 |
| 北樺太石油資源開發助成金(同右) | 2,173 | 2,440 | 1,888 | 864 | 864 | 7,580 |
| 海軍豫備油田試掘費(同右) | 710 | 710 | 1 | 1 | 1 | 1,420 |
| 油田試掘補助金 | 1 | 6,000 | 6,000 | 6,000 | 6,000 | 24,000 |
| 帝國燃料株式會社政府出資 | 1,000 | 9,000 | 5,000 | 5,000 | 5,000 | 25,000 |
| 人造石油助成補助金 | 1,793 | 7,337 | 2,473 | 3,337 | 4,685 | 125,093 |
| 國策造船會社設備保證金 | 1 | 640 | 1,280 | 876 | 180 | 2,976 |
| 國策機械會社政府出資額 | 1 | 5,000 | 5,000 | 5,000 | 1 | 15,000 |
| 其ノ他 | 1 | 51,000 | 150,000 | 150,000 | 150,000 | 501,000 |
| 右小計 | 29,825 | 216,330 | 333,553 | 347,545 | 359,268 | 883,511 |
| 滿洲ニ對スル鐵工業部門政府拂込 | | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 9,687 | 39,687 |
| 滿洲ニ於ケル其他ニ對スル政府出資 | 1 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 80,000 |
| 右小計 | | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 29,687 | 119,687 |
| 合計 | 29,825 | 246,330 | 363,553 | 377,545 | 388,955 | 1,003,198 |

備考 本表ハ所要資金ノ基礎ヲ得ルタメノ一應ノ算定トス

附表其四ノ二

本計畫遂行ノ爲ノ附帶事業ニ對スル日本政府助成額豫想

| 費目 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 計 |
|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 民間航空獎勵助長 | 1,000 | 12,998 | 14,168 | 14,158 | 14,403 | 55,727 |
| 日本興業銀行政府出資 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 15,000 |
| 國策貿易會社政府出資 | 5,000 | 5,000 | 1 | 5,000 | 1 | 15,000 |
| 農産物海外市場開拓費 | 300 | 300 | 300 | 300 | 300 | 1,500 |
| 技術者及熟練工養成費 | 17,418 | 13,850 | 15,155 | 5,950 | 5,950 | 58,333 |
| 特殊鐵資源開發獎勵 | 1,004 | 2,148 | 1,165 | 1,200 | 700 | 6,217 |
| 右小計 | 26,733 | 37,296 | 33,788 | 29,608 | 24,353 | 151,767 |
| 滿鐵ノ其他産業投資ニ伴フ政府出資 | 1 | 30,000 | 25,000 | 25,000 | 24,105 | 104,105 |
| 滿洲移民國策費 | 1 | 15,000 | 1 | 500 | 500 | 16,000 |
| 右小計 | 1 | 45,000 | 25,000 | 25,500 | 24,605 | 120,105 |
| 合 計 | 26,733 | 82,296 | 58,788 | 55,108 | 48,958 | 271,872 |

(單位千圓)

備考 一、本表ノ額ハ金融對策ノ本文政府出資額ニハ算入セス

二、本表ハ所要資金ノ基礎ヲ得ルタメノ一應ノ算定トス

0299